



酪農試験場だより

No. 140



平成22年12月10日 栃木県学校農業
クラブ連盟主催による家畜審査協議会
が会場にて行われました。

当日は、40名の選手(高校生)が、初
産牛4頭、育成牛4頭の審査を行い技
術を競い合いました。



- - 毎月第3日曜日は家庭の日です - -

酪農試験場だより No.140 平成23年1月17日発行

栃木県酪農試験場 〒329-2747 那須塩原市千本松298

TEL 0287-36-0768 FAX 0287-36-0516

ホームページ: <http://www.pref.tochigi.lg.jp/system/desaki/desaki/rakunoushikenjou.html>

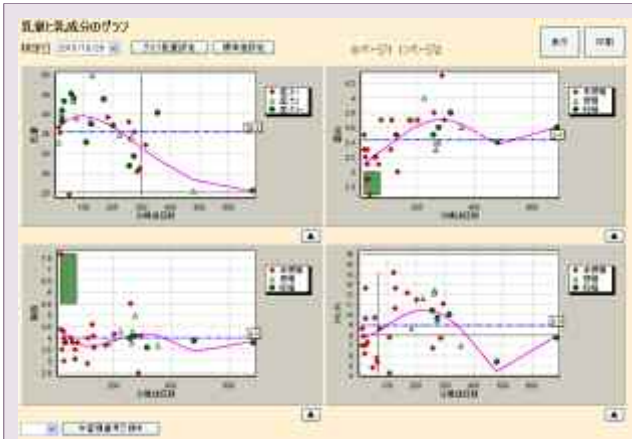
繁殖台帳Webシステムをご存じですか？

皆さん、繁殖台帳Webシステムはもうご存知でしょうか？牛群検定を実施していて、インターネットを利用できる環境にある方でしたら、いつでも、誰でも、利用できます。
 当场でも、牛群管理の手段として、このシステムの利用を開始しました。



～ 利用方法（ほんの一例ですが）～

パソコン版は <https://www.cd.liaj.jp/noka/> にアクセスし、農家ごとに発行されたIDとパスワードを入力。



← 乳量、乳成分のグラフ

牛群内の個体の乳成分(蛋白、脂肪、MUNなど)が一目瞭然！要注意牛はいち早く発見。
 「分娩後の乳脂率が高すぎるぞ！」
 「全体的にMUNが高いなあ。飼料設計を見直してみよう！」など。

MEMO 分娩後の高乳脂率・・・負のエネルギー状態による体脂肪の動員の疑い
 高MUN・・・・・・・濃厚飼料の過剰給与などの疑い

繁殖カレンダー→

「今日発情確認するのは 番。」「今週の分娩予定牛は 番。」など。
 個体番号をクリックすると、各個体の繁殖疾病台帳が表示されます。
 また、授精や分娩などデータを入力すると、牛群検定データにそのまま反映されます。

当场では、複数の担当者が繁殖管理を行っているので情報の共有化に一役買っています。



携帯電話で繁殖管理も！

機能はこれだけではありません。是非実際にアクセスして確認してください！

モバイル版でしたら、携帯電話でも利用OK！
<https://www.cd.liaj.jp/m/> にアクセス、ID、パスワードを入力。
 (ただし、パケット料金プラン等契約内容を確認下さい。)
 牛舎にいながら、個体ごとの繁殖情報、治療履歴等のデータ更新や確認ができます。

詳しい利用方法については、各牛群検定組合の事務局にお問い合わせください。

(飼養技術研究室 藤田大輔)

トウモロコシ二期作における収量の推移について

トウモロコシの二期作栽培を行う場合、1期作目と2期作目の品種の選び方が重要になってきます。一般的に、1期作目には生育期間の短いRM90～100の極早生品種を用いて刈取時期(黄熟期)を早め、2期作目には生育期間の長いRM130前後の極晩生品種を用いて乾物収量を確保する栽培が行われています。今年度、播種日と品種における乾物収量について試験を行いました。

【1期作目】

品 種: 38H20 (RM95)、KD500 (RM100)、SH3457 (RM100) の3品種

播種日: 4月8日、4月26日、5月7日の3播種日

【2期作目】

品 種: KD640 (RM115)、31P41 (RM120)、P3470 (RM127)、30D44 (RM135) の4品種

播種日: 7月5日、7月16日、7月29日の3播種日

図1のとおり、1期作目では、38H20は播種日による変動はありませんでしたが、KD500とSH3457は遅くなるほど増えていく傾向が見られました。これは4～5月の気温が低く推移したためと考えられます。

図2の2期作目では、7月5日播種で台風による倒伏がみられました。KD640、31P41、P3470が播種日が遅くなると低下しますが、30D44は低下しにくいと思われました。

来年度も引き続き、トウモロコシ二期作の乾物収量のデータを収集していきたいと思えます。

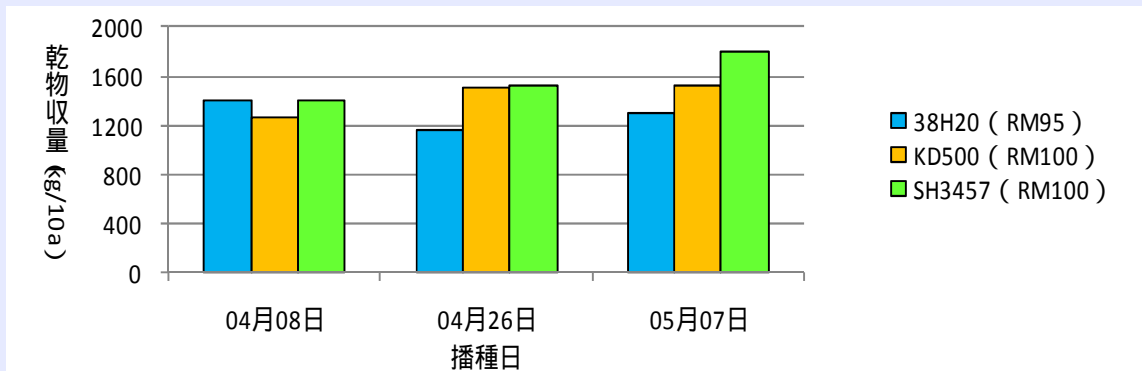


図1 1期作目における3品種の乾物収量の推移

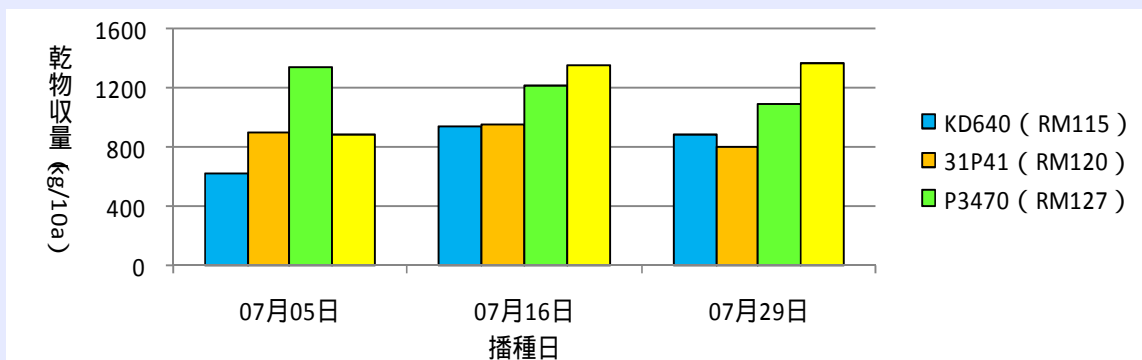


図2 2期作目における4品種の乾物収量の推移

メタン発酵消化液の飼料用イネへの利用について

酪農試験場では、平成20年から乳牛のふん尿等を原料としたバイオガスプラント(メタン発酵プラント)を用いて、バイオガスシステムの実証試験を実施しています。

メタン発酵プラントは、家畜ふん尿から、電気や熱エネルギーを取り出すことができる優れた施設です。その処理残渣である液状のふん尿は消化液と呼ばれ、従来のスラリー(ふん尿混合物)に比べ悪臭が少なく、取扱い性にも優れることから、その有効利用を図るため、飼料作物等への効果的な施肥方法について研究を進めています。

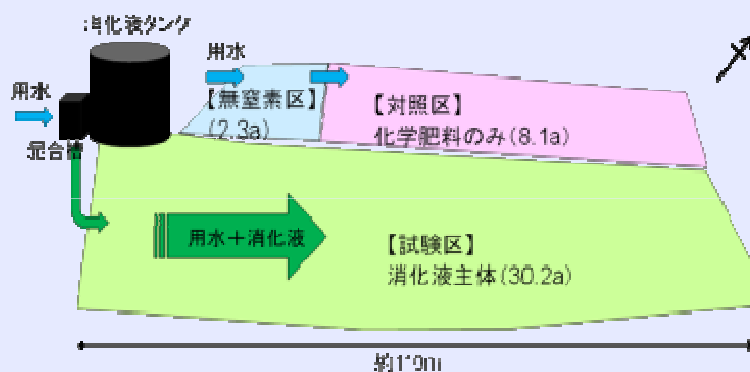
飼料用トウモロコシについては、昨年度から場内で栽培試験を実施し、化学肥料の代替として利用可能であることがわかっています(試験場便り 136号)。

飼料用イネについては、平成21年から水田の水口から消化液と用水を混合して省力的に施肥(基肥、追肥)する方法について試験を実施し、栽培した飼料イネの収量やサイレージの品質等について調査しました。

その結果、水尻部にかけて散布むらによる収量低下が見られましたが、この飼料イネから調製したサイレージの品質も対照区と差が無く、化学肥料の代替資材として十分利用可能であることがわかりました。



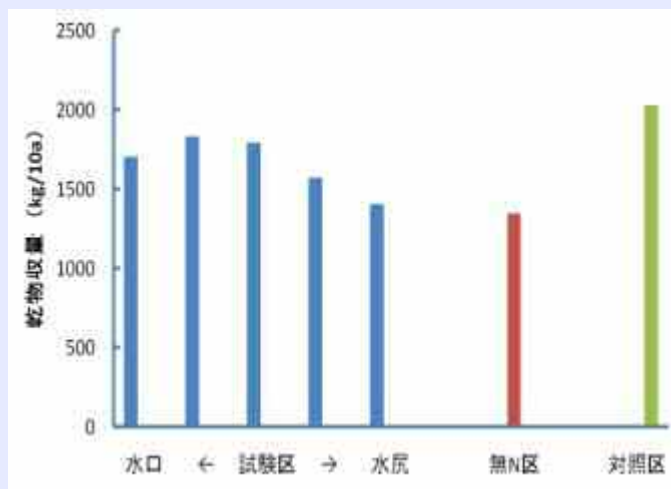
水田に設置された消化液散タンク



試験水田の配置図



収量調査時の試験水田
(消化液タンクから撮影)



飼料イネの乾物収量
試験区は水尻で散布ムラによる収量低下あり

(畜産環境研究室 木下 強)